

2009年1月28日

環境技術「ヒートポンプ」普及のための国際会議

第10回『IEA ヒートポンプ国際会議』開催国「日本」に決定

～ 世界をリードする技術水準と多数の先進事例が評価され開催 ～

財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター(所在地：東京都中央区、理事長：加藤寛)は、次回2011年に開催される『IEA ヒートポンプ国際会議』の開催国が、この度、「日本」に決定したことを発表しました。10回目を迎える本会議は、世界をリードする技術水準と、先進事例を多数持つ点が評価を受け、日本での開催に至りました。議長国となる日本は、地球温暖化対策の切り札として期待される「ヒートポンプ」の普及に向け、様々な施策や最新の技術を世界に提言する予定です。

<「IEA ヒートポンプ国際会議」について>

『IEA ヒートポンプ国際会議』は、3年ごとに行われるヒートポンプに関する国際会議で、国際エネルギー機関(IEA: International Energy Agency)が主催します。会議には、ヒートポンプを推進する世界の国々が一堂に会し、期間中、最新技術、政策、研究開発などについて意見交換が行われます。前回、2008年にスイスの「チューリッヒ」で開催された第9回目会議では、アジアをはじめ、欧州、中東、北米、アフリカから、同技術に関する36カ国の研究者や政策立案者、企業代表などが集まり、総勢447名が参加しました。



第9回IEAヒートポンプ国際会議(スイス)

<日本で開催する2011年会議について>

～日本による提案テーマ：“Let’s save the Earth with the Heat Pump”～

『IEA ヒートポンプ国際会議』の開催国は、ヒートポンプの普及を目指すIEAの分科会「ヒートポンププログラム」にて、プロポーザルを行い決定されます。日本はプロポーザルに参加し、“Let’s save the Earth with the Heat Pump”をテーマに提案を行いました。提案の中では、効率性に優れた製品を世界に先駆けて開発する技術力や、ヒートポンプを採用した大型複合施設や商業施設、交通機関など、先進的事例を多数有する点、家庭用ヒートポンプ給湯機「エコキュート」等の高効率機器の普及実績など、日本の知見が世界の温暖化の解決には必要で

あることを提言し、投票の結果、日本での開催が決定しました。2011年の会議では、最新の研究成果等に基づき、ポスト京都議定書の枠組みにおけるヒートポンプが果たすべき役割について、日本が議長国としてとりまとめることを提案しています。

<欧州におけるヒートポンプの動き>

欧州議会において、ヒートポンプを太陽光発電や風力発電と同様に“再生可能エネルギー”として定義することが盛り込まれた「再生可能エネルギー推進に関する指令案」が、2008年12月17日に採択されました。本指令案はこの後、欧州の閣僚理事会での採択を経て成立する見通しです。また、今年1月から施行されたドイツの「再生可能エネルギー熱法」においても、ヒートポンプが再生可能エネルギーと定義されています。CO2排出量削減を推進する世界の動きの中で、欧州は、2020年までに20%のCO2排出量削減を目指す厳しい数値目標を設定しています。その状況下において、環境技術「ヒートポンプ」が“再生可能エネルギー”として定義されることで、欧州においては、ヒートポンプの一層の普及拡大が見込まれています。

財団法人 ヒートポンプ・蓄熱センターについて

経済産業省所轄の公益法人で「ヒートポンプ」と「蓄熱」のナショナルセンター。日本が世界にリードする環境技術「ヒートポンプ・蓄熱システム」の普及促進と技術向上に向けた事業を展開

環境技術「ヒートポンプ」について

エアコン、洗濯乾燥機などの家電製品から、大型施設の空調設備まで、様々な分野において活用される省エネ環境技術。同技術で代替可能な熱需要を全て賅った場合、試算で日本のCO2総排出量の1割（1.3億トン）が削減可能

<ヒートポンプに関する報道関係お問合せ先>

財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター：東京都中央区日本橋蛸殻町 1-28-5

業務部 矢田部、山川 Tel: 03-5643-2402 Fax: 03-5641-4501

広報担当 (株) プラップジャパン 伊藤、山口 Tel: 03-3486-6868 Fax: 03-3486-7502

【ご参考資料】

「IEA ヒートポンプ国際会議」について

ヒートポンプ技術を世界規模で共有する唯一の枠組みとして、IEA に設けられた IEA ヒートポンププログラムが主催する国際会議。ヒートポンプに関する技術、市場、政策、エネルギーと環境問題など、広範囲な課題について討議され、1984 年の第 1 回会議以来、3 年毎に世界各地で開催されています（過去の開催国は下記参照）。会議は、ディスカッションや、ネットワークづくり、情報交換を通じ、ヒートポンプ技術の向上・普及促進を図ることを目的に開催され、世界各国の参加者より、ヒートポンプに関する技術や市場、政策、規格について、環境上の利点と省エネルギーの観点から議論が行われます（主な参加者は下記参照）。

<過去の開催国>

- ・ 第 1 回(1984 年) : オーストリア [Graz]
- ・ 第 2 回(1987 年) : アメリカ [Orlando]
- ・ 第 3 回(1990 年) : 日本 [東京]
- ・ 第 4 回(1993 年) : オランダ [Maastricht]
- ・ 第 5 回(1996 年) : カナダ [Toronto]
- ・ 第 6 回(1999 年) : ドイツ [Berlin]
- ・ 第 7 回(2002 年) : 中国 [Beijing]
- ・ 第 8 回(2005 年) : アメリカ [Las Vegas]
- ・ 第 9 回(2008 年) : スイス [Zurich]

第 9 回 (スイス) の概要

アジアをはじめ欧州、中東、北米、アフリカなど 36 カ国が参加。総勢 447 名が参加し、その内、日本からの参加者は 48 名。221 件の各種発表があり、日本は基調講演 1 件を含む 39 件発表し、ベストポスター賞も受賞。

- ・ 第 10 回(2011 年) : 日本に決定

<主な参加者>

- ・ 研究者／開発者
- ・ 機器設計者
- ・ R&D マネジャー
- ・ 技術サポーター
- ・ 政策立案者
- ・ 環境アナリスト
- ・ 公共
- ・ メーカー
- ・ 設置会社
- ・ 電力会社
- ・ 建設会社 など